

第22回しれとこ産業まつり



第22回「しれとこ産業まつり」が10月7日（日）に開催され、多くの人出で賑わいました。

当センターは「知床の絵はがきプレゼント」「木工教室」「丸太切り体験」等のコーナーを設けました。

知床の絵はがきプレゼントでは、知床の風景や動植物をプリントしたはがきを用意したところ、あっと言うまに無くなるほど大人気でした。

また、丸太切り体験では、昔の思い出を話しながら鋸を曳く年輩の方や、はじめて鋸を握る子どもに手ほどきをする家族連れなど、多数の参加がありました。



しっかり握って

木工教室では、小枝やドングリを使って多くの子供達がそれぞれ自由に工作を楽しんでいました。なかには常連の子もいて、大人顔負けの作品を作っていました。

法被姿で一日大忙し状態のセンター職員でしたが、今回の催し物を通じて「知床の森」の理解を深める存在としてアピールすることができたようです。



好きなもの、いっぱい作ってね

知床の森から

平成13年11月発行 第75号

北海道森林管理局北見分局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>

シンボルマーク「ゲラちゃん」



知床は今

知床半島は秋も終盤になり、周辺の木々の葉が落ちて地面に重なり木々の紅葉も色あせてきました。今年の紅葉は、比較的きれいに赤く色づいて秋の景色に彩りを添えました。斜里町から羅臼町に抜ける国道の知床峠、標高730mは、目の前にそびえる羅臼岳（1,661m）頂上が、白く薄い雪を被り斜面のダケカンバの黄色い葉がすっかり落ちてしまい曲がりくねった白い幹が一面に幾何学模様を描いています。オホーツク海に注ぐ川に溯上するマスやサケが産卵のため、つがいで泳いでいる姿が見られます。今年のサケ漁は昨年より多く、豊漁のようです。エゾシカは夏毛から冬の毛



羅臼岳（1,661m）頂上に白く薄い雪



産卵のため川に溯上するサケ

に衣替えが終わり、ヒグマなどの動物も冬の準備に入ります。10月に入り斜里市街地でオジロワシの飛んでいる姿が見られました。これからハクチョウやオオワシなどが越冬の為に次第に飛来するでしょう。今月初めには、知床峠が雪のため冬季の通行止めになります。これから冬を控え、流氷が来る1月迄観光客も減少し知床半島も静かになります。

WELCOME

修学旅行の高校生が来所

10月23日(火)、奈良県内の帝塚山高校の女子生徒と教師など合わせて81名が当センターを訪れました。修学旅行のコースとして訪れたもので、大勢の修学旅行生が当センターにやってくるのは初めてのことです。

大型バス2台に乗ってきた一行は、木材に囲まれたセミナー室に入ると、早速、センター職員から知床の自然についての写真を交えた解説を聞きました。

まずは、知床半島の特徴と、そこに住んでいる動物

の姿です。特に、エゾリスやヒグマの写真に歓声が沸いていました。

続いて、知床の森林の四季の移り変わりで、霧に煙る森林やパノラマが広がる田園風景など季節ごとに変わる森林の木々や色とりどりの草花は知床の自然の豊かさの証です。四季の中でも今回は「冬」に重点を置きました。真冬の澄んだ空気と山並みの美しさ、歩くスキーの楽しさ、オホーツク海の白い流水と青い海が織りなす美しい風景を紹介して、冬の知床をPRしました。



先生方も興味津々



どんな話が聞けるかな

生徒達は、スクリーンに次々と映し出される写真を見て、知床の雄大さと美しさにとっても感動した様子でした。

日程が詰まっており、わずか30分という短い時間のため十分な説明はできませんでしたが、知床の大自然の良さをたくさんの人に知ってもらうことができ、大変有意義なものでした。

今後もこういう機会を有効に使って知床半島の情報発信に努めていきたいと思えます。

第59回森林レクリエーション・in知床 『秋の知床登山と紅葉狩り』

第59回森林レクリエーション・in知床『秋の知床登山と紅葉狩り』を9月30日(日)に開催しました。

今回のイベントは、秋の紅葉狩りと紺碧のオホーツク海を眼下に、今なお水蒸気を上げている知床硫黄山新噴火口への登山です。

当日は、青空が広がる登山日和に恵まれ、前日の寒波により知床連山の山頂にはうっすらと雪がかかっていた。

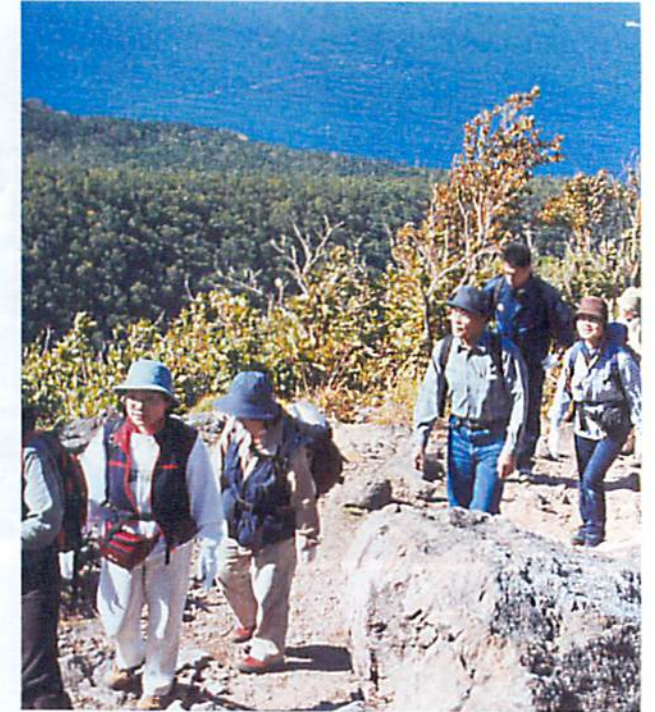
硫黄山山麓は紅葉が始まったばかりで、緑や黄色、紅色が混じりあい初秋を思わせる風景が広がっていました。

登山道を歩いていると万病に効くと話題のカパノアナタケを見つけ参加者は興味津々で観察していました。

動物達がドングリを散布する役割を担っている事や熊がアリの巣を掘り起こして小さなアリを食べる事、硫黄採掘の歴史、森林浴の効果などについて解説しました。

足元のシラタマノキの可愛い白い実や色づきははじめた紅葉が参加者の目を和ませていました。

コース終盤には堆積する岩の間を四肢を使い登る箇所もあり、スリルを味わいながら、白い岩礫が重なる新噴火口へ到着し昼食をとりました。



オホーツク海のパノラマに胸を躍らせて

紅葉に彩られはじめた硫黄山と振り返れば紺碧のオホーツク海の雄大さに、しばしの登りの辛さも忘れ参加者のみなさんは眼前に広がるオホーツク海のパノラマに胸を躍らせているようでした。



白い岩礫が重なる新噴火口で記念写真